

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表日

2026年 2月 20日

事業所名

こぱんはうすさくら 南越谷教室

保護者等数(児童数) 33名 回収数 28件(割合85%)

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	7		1	放課後の2時間程度なら許容範囲。休校日など一日中過ごすとなると窮屈でないかと思う。	教室の広さにつきましては、行政の基準に基づき整備しております。また、スペースを分ける等の工夫をしながら、安全面へも配慮も必要と考えております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22	2		4	何人いるのか不明	引き続き、安全面に配慮した職員の配置を考えていきます。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24	1		3		概ね、子どもにとって分かりやすい生活空間となるよう配慮しています。今後も、障害特性に応じた環境調整や情報伝達の工夫について、継続的に見直しを行っていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	1		4		活動内容や、人数によって安全性・快適性を考慮しながら活動出来るように調整しています。
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24	1		2		職員間で情報共有を行い、子どもに応じた関わりや支援方法を検討しています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27			1		概ね、支援プログラムと提供する支援内容は一致していると考えていますが、今後も定期的な見直しを行い、より分かりやすい内容となるよう努めています。
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27	1		1		概ね、ガイドラインに沿った計画作成を行っていますが、今後も内容の充実に向けて継続的な見直しを行っていきます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	26	2			週に複数回利用だと、何回か同じ活動になる。	概ね、活動プログラムが固定化されないよう配慮していますが、今後も子ども達の反応を踏まえながら、より充実した内容となるよう検討していきます。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	4	6	12	6		子ども達の安全面や特性を考慮しながら、地域との関わりについては慎重に検討しています。必要に応じて、今後の取り組みについて検討していきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	28					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トーリーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	6	4	6		現在は個別の相談や情報提供を中心としていますが、今後は家族支援の充実に向けて、研修会等の実施についても検討していきます。
保護者への説明等	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	27	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	26	2				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27			1		共感的な関わりを大切にした支援を心がけていますが、感じ方には個人差があることも踏まえ、より安心感を持っていただける支援を目指して改善を重ねてまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	5	12	7		現在は、保護者会やきょうだい向けイベントの定期的な実施は行っていませんが、必要に応じた相談対応や情報提供を行っています。

	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	4		2		概ね、相談対応の体制は整備されていますが、今後もより相談しやすい環境づくりに努めています。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27	1				
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	23	2	2	1		概ね、情報発信を行っていますが、今後もより分かりやすい発信方法について検討していきます。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28					
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20		2	6		事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等の各種マニュアルを整備し、安全確保に向けた取り組みを行っています。また、発生を想定した訓練も実施しております。保護者への説明についても、重要事項を中心に対応しています。
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20		2	6		概ね、非常災害を想定した訓練を実施していますが、今後も内容の充実や実施方法の見直しを行っていきます。
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	1		6		概ね、安全確保を意識した支援が行えていると考えていますが、今後も周知方法や内容の充実に努めています。
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25	2		1		概ね、事故発生時には速やかな連絡と説明を行っていますが、今後もより分かりやすい対応に努めています。
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	27			1	先生達を信頼してるのがよくわかります。（先生達の名前よく聞くので）	温かいお言葉をありがとうございます。子ども達が安心して過ごせるよう、今後も支援に努めてまいります。
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	23	2		3	インフルエンザになってお休みをした時も「行きたい！」と言ってるぐらい、楽しみにしています。	今後も子ども一人ひとりが安心して通所を楽しめるよう支援内容の工夫を行っていきます。
	29 事業所の支援に満足していますか。	25	3			短縮授業や長期休みの時食事の提供をして欲しい。外遊びや外出の行事なども取り入れて欲しい。 休校日は外出や外食、外で色々な経験をさせてもらえると嬉しいです。	外出や外遊び等については、子ども達の経験の幅を広げられるよう、安全を最優先に検討・実施しています。 食事の提供については、衛生管理や運営体制の課題から実施に至っておりませんが、今後の参考とさせていただきます。

公表日

2026年 2月 20日

事業所名

こぱんはうすさくら 南越谷教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		児童の特性や活動内容に応じて、部屋の使い分け。	児童数が上限に近い場合、個別対応に十分な余裕が持ちにくいと感じる。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2	以前よりは改善されている、連絡帳の記入ができる職員を増やしてほしい。	利用人数が多い日や支援ニーズが高い場合には、職員一人あたりの負担が大きくなる場面がある。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	事業所内は段差の少ない設計とし、安全面や移動面に配慮した環境を整えている。	建物の構造上、十分なスペースの確保や動線の分離に限界がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		事業所内は日常的な清掃や整理整頓を行い、清潔で心地よく過ごせる環境の維持に努めている。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		職員が状況を判断し、子どもが安心して過ごせるよう柔軟に対応している。職員の配置にもよるが対応出来る時もある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	1		業務改善に関する目標設定や振り返りへの職員の参画が十分ではありません。今後は、職員が意見を出しやすい場を設け、PDCAサイクルに広く参画できる体制づくりを進めていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			評価結果のフィードバック方法や改善内容の周知が十分でないと感じる部分がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2		職員の意見を把握し、業務改善につなげる取組が十分にできていません。今後は、定期的に意見を聞く機会を設け、業務改善に反映できる体制を整えていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	3		第三者による定期的・体系的な外部評価の実施には至っておらず、評価方法が限定的である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	2		研修内容について、個々の経験年数や役割に応じた体系的な整備が十分でないと感じる場面がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10			忙しい時期には、十分な検討時間の確保が難しいと感じる場面がある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	2	児童発達支援計画の作成にあたっては、児童発達支援管理責任者だけでなく、日常的に支援に関わる職員の意見を取り入れているが、全体的には難しい。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10			
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1		アセスメント結果を十分に整理・分析する時間の確保が難しい場合がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10			子どもの安全や特性への配慮から、活動内容が一定のパターンに偏ってしまうことがある。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	4	平日はシフトの関係で、難しい面がある。	利用人数や業務状況によっては、打合せ時間が十分に確保できない日がある。

適切な支援の提供	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	4	平日はシフトの関係で、難しい面がある。	振り返り内容を継続的な支援改善に体系的に活用する仕組みづくりが課題である。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10			
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	9	1	地域交流は出来ていない。	集団活動や時間の制約から、すべての基本活動を十分に組み合わせることが難しい場合がある。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10			時間や集団活動の制約により、すべての場面で十分な選択機会を確保できないことがある。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10			
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10			関係機関との直接的な連携の機会が限られたり、主に保護者を介した情報共有に依存している面がある。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10			学校との情報共有が、保護者経由になることが多く、直接的な連携が十分でない場合がある。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	2		就学前に利用していた関係機関との情報共有や相互理解が十分とは言えません。今後は、必要に応じて情報共有の機会を設け、切れ目のない支援につなげていきます。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	1		現時点では、該当するケースがなく、実績がありません。今後、移行が必要となった際には、支援内容等の情報提供が適切に行えるよう、体制整備に努めています。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	1		連携の機会が、個別ケース対応にとどまりがちである。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	4		定期的・計画的な交流の実施には、調整や準備が必要と感じる場面がある。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	3		現在は十分とは言えませんが、今後は自立支援協議会等へ積極的に参加し、関係機関との連携強化に努めています。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		日頃から連絡帳や配信ツール、口頭でのやり取り等を通じて、子どもの様子を保護者と伝え合っている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特レーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	3		家族支援プログラムや研修を事業所主催で定期的に実施するまでには至っていない。
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10			
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10			
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10			
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10			業務の都合上、十分な時間を確保した対応が難しい場合がある。
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	5		安全面や運営体制の都合により、交流の場を設けることが難しい状況がある。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10			
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	3		すべての保護者にとって、分かりやすく伝わっているか確認が難しい場面がある。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			

	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		保護者に対しては、連絡帳や配信ツール、面談等を活用し、必要な情報が適切に伝わるよう配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	4		地域との交流機会について、計画的な実施に課題がある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10			家族等への周知方法について、より分かりやすい伝え方の工夫が必要と感じる場面がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10			訓練内容について、実際の災害を想定したより具体的な検討が必要と感じる場面がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10			現状、重症のアレルギー児童はいないが、必要に応じて対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10			安全計画の内容について、職員間での理解度に差が生じる可能性がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1		安全計画の内容について、十分に理解いただけているか確認が難しい場面がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	法令やガイドラインを踏まえ、不適切な対応を未然に防ぐための意識づけを行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		身体拘束については、こどもの生命・身体の安全確保が最優先となるやむを得ない場合に限り行うという方針を共有している。	